



名古屋競馬場のレースで力走する競走馬。後方にあおなみ線が見える—名古屋市港区泰明町で



あおなみ線

2

方々に舞い上がる白い砂は、岸壁に打ち付ける波しぶきのよう。低音のギャロップが、胸の高鳴りと呼応する。さあ、来い。

あおなみ線の駅名にも連なる名古屋市港区の名古屋競馬場。開業は一九四九（昭和二十四）年。増改築を経たが、平成最後の正月にも昭和の薫りを漂わせる。

勝っても負けても腹は減る。みそかつ、どて煮、エビフライ。入場口の左右には飲食店が連なり、定番の名古屋めしで待ち構える。

西端の「松井屋」はしょうゆラーメンも人気。半日近く煮込んだ自家製チャーシュー

## 勝負めしとともに駆けた

が存在感を放つ。みたらし団子は一本八十円。やけ食いしても財布にやさしい。

店を切り盛りする松井美代子さん（左）は前の屋号から続けて約三十年。作業台は輝くほど拭き上げられ、木製そろばんも現役。スマートフォンより速い自信がある。

親の代から競馬場と縁があり、手伝いを始めたのは中高生の頃。気づけば同業で最古参になった。二〇二二年度には愛知県弥富市への移転を目指す競馬場。「体はしんどいけど、もう少しだけね」



文・佐々木香理

写真・木戸 佑